

—第10駅—金手

てくてく 甲斐のくに

街道の駅からの小さな旅



金手駅付近を通る旧甲州街道には、
城下町特有の鍵の手状のクランクがあり、
この鍵の手が、金手(かねて)の名の由来とされています。
江戸時代、多くの旅人たちがこの地を行き交い、
町は栄え、印伝の文化も広まってきました。
そんな歴史の風情を感じながら、甲府の城下町をてくてくと…。



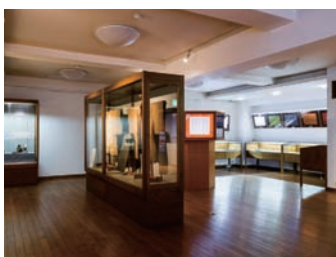
06

印傳屋 上原勇七
本店

天正10(1582)年創業。遠祖・上原勇七が、鹿革に漆で模様を付ける技法を創案した。この辺りは甲府城下の入り口として、江戸時代から繁栄していた。

07

印傳博物館



印傳屋本店の2階にある博物館は、印伝の歴史や技法を伝える資料や、貴重な作品を数多く収蔵、展示している。印伝の文化と魅力を深く知る事ができる。

08

五味醤油



創業明治元年の老舗。米こうじと麦こうじを合わせて造る甲州みそは山梨特有のもの。昔ながらの製法にこだわり、丹精込めて手作りしたみそは、滋味豊かな味わい。

01

甲斐奈神社



甲斐奈通りに面した階段を上ると新しく改築された拝殿が迎えてくれる。境内には、健康守護社、商売繁盛社、諸願成就社などいくつもの末社がある。

02

nohono
のほのほ

横近習町通りを歩き交う人々を眺めながらランチが楽しめるお店。店主が丁寧に作るごはんは、優しい味わい。

03

甲府
カトリック教会

大正時代に建てられた教会は、建築物としての魅力もある。聖堂内部には6体の聖像があり、人々の心のよりどころ、祈りの場として常に開放されている。

04

地域の歴史を
伝える案内板

古い地名と当時の町並みの地図に解説を添えた案内板が、道端にある。古い地名からその地の歴史に思いをはせれば、散歩にも一層の風情が感じられる。

05

横近習大神宮
よこきんじゆ

毎年2月3日には、柳町大神宮とともに節分祭が行われる。江戸時代から続くこのお祭りは、「大神さん」と呼ばれ親しまれている。春には境内の桜も美しい。

てくてく
歩きの
途中で...



甲府カトリック教会でお会いした司祭の白木信一さんは「この辺りは外国籍の方も多く、いつでもお祈りができるように聖堂は24時間開放しています。誰でも自由にお入りいただけますので、この地を訪れた方にも教会に触れ、静かなひとときを過ごしていただけたらと思っています」と優しく語ってくれました。

吉祥の願いを模様に入れて。

古来から親しまれていた古典柄は吉祥の意味合いも持つ。

厄よけとして武具などにも用いられてきたといわれる「亀甲」、

平穏な暮らしが続くことを願う「青海波」、

商売繁昌の意味を持つ「ひょうたん」、勝虫かちむしとも呼ばれ勝負事に縁起が良い「とんぼ」、

繁栄・長寿の「花唐草」など、

自然界や四季の美しさを感じ取る

日本人の美意識を象徴する模様が印伝の伝統に寄り添い続けてきた。

(右上から時計回りに)

花唐草／爪唐草／紗綾形／ぶどう／青海波
亀甲／波うるこ／とんぼ／小桜／ひょうたん

